

田助小 学校だより

白 岳 薫 風

規律厳正
士気旺盛
和気藹々

令和4年 6月 14日 文責 校長 丸田 邦博

<少年の主張大会 ○お○さん、見事に優秀賞！>

6月12日（土）市文化センターにおいて、少年の主張大会が開催され、本校の6年○中○緒○さんが出場し、優秀賞をいただくことができました。発表原稿を記載します。ほがらかで、凛とした発表態度と自分の体験や学習から紡いできた思いが評価された結果であると思います。○緒○さんらしさが溢れた発表でした。



「私の海」

平戸市立田助小学校 6年 ○中○緒○

「今日もごみが多いなあ。」

私は、朝、海を見てそう思いました。プラスチックごみや空き缶、ビニール袋などが田助のきれいな海とは対照的に私の目に飛び込んできました。そんな中、笑顔で私にあいさつをして静かにゴミ拾いをする近所の漁師さんたちがいます。それを見て、いつも「すごいなあ。」と思っています。それから、私もゴミを拾うようになりました。「多すぎる！」と思ったこともありますが、そんな時には、何も言わず拾う漁師さんの顔が浮かんできます。改めてすごい人たちだなと尊敬し、拾う手が進みます。

海のごみは、生態系や水産業、景観への影響などいろんな問題があります。毎年約800万トン以上のごみが海に捨てられています。ジャンボジェット機五万機に相当するごみの量だそうです。30年後には、魚よりもごみの方が多くなる言われています。調べている途中にビニール袋やプラスチックごみのすぐ側を泳ぐウミガメの写真を見つけました。かわいそうだなと思うと同時に、うるっとした目で力強く泳ぐ姿にはすごく心が締め付けられました。プラスチックごみは特に丈夫なので分解されることはありません。ゴミ袋が最近、有料化になった理由が何となくわかりました。ごみを捨てると実際に魚はエサと間違えてそれを食べてしまったり、その魚を食べる人間も健康被害にあたりするのです。魚も卵を産む場所がなくなり減少します。当然ですが漁獲量も減り、漁師の人たちも生活ができなくなります。

私は、「平戸の海は、どうなるのだろう。」と心配になりました。同時にやさしい漁師さんたちの顔が浮かびました。「このままじゃいけない。」と強く思いました。

みなさんは、SDGsという言葉聞いたことがあるでしょう。国連が2015年に定めた2030年までに達成を決めた持続可能な開発目標17の項目のことです。その目標14番目に『海の豊かさを守ろう』というのがあります。

この目標は私たち平戸市民や特に田助の人たちにとっては、他人事ではありません。明日を生きる海に関わる全ての人にとっては緊急な問題なのです。

みなさんは、新鮮なとれたての魚をもらって食べた経験はありますか。私の曾祖父は漁師をしていて、私の食卓には立派な魚が並びます。特にアジの刺身やフライは最高です。もしかしたら、こんな光景は平戸だからあるのかもかもしれません。

今私たちにできることは何でしょうか。それは、海のごみ問題についてもっと勉強することです。プラスチックの素晴らしいところは丈夫だからです。一方でプラスチックの恐ろしいところも丈夫だからです。死んだ鳥のお腹からごみが出てくる姿はもう見たくありません。また、海とともに生きる人たちと関わり、その人達の生活について、知って感じることも大切だと思います。

曾祖父は90歳で未だに現役の漁師です。漁で生計を立て、祖父や父を育てて、今の私があります。魚が獲れなかった時もあったそうです。でも、家族のために、必死に働いてきました。そんな漁師さんは、田助だけでなく、日本中にいると思います。

わたしは、今回の勉強をとおして、地域のごみ拾いや学校のグリーン作戦の意味が少し深くわかったように思います。また、コンビニやスーパーに行ってレジ袋をもらわない意味なども。

今日も曾祖父たちは、朝から漁に出かけています。私たちに命を与えてくれる、笑顔で迎えてくれる田助の海をこれからも大切にしていきたいです。